

評価 A:目標を上回った B:ほぼ目標どおりできた C:目標を下回った

学校教育目標	重点目標(中・長期目標)	総合評価	評価
保育及び介護福祉に関する専門的技術と知識を修得し、しあわせを創造する力を養うフィールドとして、愛情豊かな心を育み、誰からも愛される福祉人材を育成する。	創造力に富み、誰からも愛される人材、地域を愛し地域に貢献する人材、主体的に学び行動できる人材を育成する。	今年度は、実践的な学びと地域連携を重視した教育活動を展開し、学生が社会と自分の行動を結び付けて学ぶ機会の充実を図った。併設する福祉大保育園と連携し、定期的なミーティングや情報共有を通して実践学習の質の向上に努めた。 フィールドワークや地域活動を通して、地域・社会の一員として行動する重要性を学び、専門性を社会に還元する姿勢を育んだ。保育学科学生は保育計画の立案・実施・評価に主体的に取り組み、子ども一人ひとりのニーズを捉えた関わりを通して責任感や当事者意識を高め、実践力を身に付けた。また、介護福祉学科学生は、企業や専門職と協働し、現場に即した学習環境の整備を進めた。さらに、一方で、保育園職員との連携強化、地域公開講座の参加者層拡大、学生募集広報の訴求力向上、ICT環境や学生支援体制の整備が課題として残った。 今後はこれらを踏まえ、連携授業の充実、計画的な広報活動、ICTを活用した学習支援を進め、主体的に学び行動できる福祉人材の育成と学校運営の質向上を目指す。	B

今年度の重点目標	成果(○)と課題(●)	改善策	評価
実践力を重視した専門教育で、しあわせを創造する最前線で活躍する人材を育成する。	○保育学科では、1年次から福祉大保育園と連携した体験的授業を実施することで段階的な実践力の育成や、園児との日常的な交流を通して子ども理解と責任感を高めた。併せて、卒業生や現場保育士の講話を実施し、現場で求められる姿勢や専門性を学ぶ機会を設けた。 ●福祉大保育園や企業等との連携による実践的教育において、園児への負担や運営方法への配慮を含めた体制整備が必要である。 ○短大との併修による幼稚園教諭二種免許の取得について、支援体制を強化し、2年生は希望者全員が取得、1年生も取得に向けて着実に取り組んでいる。質の高い学びを継続的に確保している。 ○介護福祉学科では、企業と連携した実践的な体験授業や、ケアコンテストへの継続的な取組を通して、専門性と実践力、学習意欲を高めた。そして、国家試験は高い合格実績(合格率100%)を維持している。	☞園児への負担や運営面に配慮した連携体制を整備し、実践的教育を一層充実する。	B
信州の豊かな自然・歴史・伝統を愛し誇りを持ち、社会福祉を通じて、持続可能な地域づくりに貢献する人材を育成する。	○保育学科は「地域実践演習」において選択制フィールドワークを実施し、諏訪地域の歴史・伝統に触れながら学年を超えた交流を深めた。 ●地域連携活動における経済的負担の公平性への配慮が十分でない。 ○介護福祉学科は地域の産業史を学び、利用者理解や実習でのコミュニケーション力向上につなげた。さらに、地域住民との連携・実践を通して、地域理解と実践力を高め、成果を地域へ還元した。 ○さまざまな啓発活動への継続参加により、地域への社会貢献意識を高めた。 ○園芸活動や季節装飾の制作・展示により、自然や季節を大切に感じる感性と環境づくりの意識を育んだ。 ○特別講義や地域イベントへの参加・企画運営を通して、福祉専門職としての実践力と発信力を育成した。 ●学生の主体性を高める工夫や、公開講座の開催方法・周知方法について見直しが必要である。	☞経済的負担の公平性に配慮し、地域連携活動を持続的・発展的に展開する。 ☞学生の主体性を高める取組を強化するとともに、公開講座の開催方法や周知方法を見直し、多世代が参加しやすい体制を整備する。	A
みんなのしあわせのために、自らとるべき行動を学び、考える力を養い、目標に向かって行動できる人材を育成する。	○実務的な社会人研修やキャリア支援、個別面談を充実させ、プロとしての意識と責任感を育成するとともに、SDGsの学習や地域活動(ボランティア等)への参加を通して、持続可能な社会づくりを自分事として捉える力と主体性を育んだ。 ○学習・授業評価を自己評価指標の一つと位置づけ、教員が学生の意見を授業改善に反映する体制を強化した。また、「学生と校長との対話」を行い、学生の意見を学校運営に反映する体制を整えた。 ○Wi-Fi環境の整備など、ICT学習環境の整備を進め、ペーパーレス化の推進、教務学習支援システム導入の検討を行うなど教育の質向上を図った。 ●電子媒体と紙媒体の効果的な使い分けなどICT環境を活用した適切な学習支援が不十分である。また、学生の経済的理由による学習環境の格差が見られる。	☞電子媒体と紙媒体との適切な使い分けを整理し実施していく。格差解消など公平な環境をどう構築していくか検討していく。	B
志の高い学生の応募に繋げるため、本校の魅力を発信し、誰からも愛される福祉人材を育成する。	○オープンキャンパス、文化祭、公開講座、出前講座等の実施や学校訪問により、本校の魅力を直接発信した。 ○ホームページやInstagramの更新頻度を高めるなど情報発信を強化した。 ○独自ホームページ開設やパンフレットの内容見直しに向けた検討、プレスリリースや自治体広報誌への掲載等、多様な媒体を活用した広報を実施した。 ●広報計画が十分検討した上で、立案されておらず、本校の強みを効果的に発信できていない。高校生の進路動向を踏まえた学科別募集戦略の再構築が必要である。	☞早い段階で広報計画を立てて計画的に情報発信を行い、本校の強みを分かりやすく伝えるとともに、高校生の進路動向に合わせて募集戦略を見直す。	B

評価 A：目標を上回った B：ほぼ目標どおりできた C：目標を下回った

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果（○）と課題（●）	改善策	評価
教育活動	教授	実践力を重視した専門教育で、しあわせを創造する最前線で活躍する人材を育成する。	学生が主体的に学び、保育現場で求められる実践的なスキルを身につけることができる	<p>○より実践的な学びを得られるよう、教科目「保育実践演習」及び「保育原理Ⅱ」を中心に全9教科目において福祉大保育園と連携し、入学当初から2年次の後期まで段階を考慮した体験的な授業を実施した。1年次は、子どもに慣れることから始まり、保育内容の基礎に触れ、子ども一人ひとりの違いに目を向けることができた。2年次は、保育過程の実践から、子どもの理解の重要性や保育士としての視野の広さ、責任の重さを体感しながら、より実践に近い充実した演習ができた。また、保育園行事や、音楽遊び、運動あそびに関わることで、子ども一人ひとりのニーズや想いに気付き、即座に対応する学生や、子どもの気持ちを尊重しながらも個と集団を考慮して行動する学生など、責任感や当事者意識の芽生えが窺える姿がみられた。</p> <p>●福祉大保育園と連携した授業は、学生のニーズも高いため、園児への負担を考慮しながら、更なる授業展開、時間数の増加について、検討が必要である。</p> <p>○キャリア形成授業の一環として、学生のうちに身につけておくべき姿勢や、多様な福祉施設の実態を理解するため、卒業後3年を経過した先輩保育士との懇談会を実施した。さらに、同窓会員やベテラン保育士による講話を通じて、現場で求められる社会人としての態度、保育技術、情報発信の重要性などについて学ぶ機会を設けた。第一線で活躍する保育士の生の声は緊張感があり、学生にとって将来の働き方を具体的にイメージし、学ぶ意義を実感する貴重な時間となった。</p> <p>○福祉大保育園児と日常的に触れ合えるという本校の特色を活かし、昼食休憩時に「わくわくタイム」を設け、学生と園児が自由にふれあえる時間を大切にしたい。学生は園児との関わりを通して、日頃の学びを実感しながら保育への理解を深めることができた。また、福祉大保育園職員と学校職員が定期的に顔を合わせ、学生の実践演習について意見交換を行うことで、連携を深めている。</p> <p>●わくわくタイムについては、今年度、開始時期が遅れたことにより、学生及び福祉大保育園職員の双方に実施曜日や時間が十分に調整・周知されず、有効な活動時間として十分に活用することができなかった。</p>	<p>☞福祉大保育園と連携する授業の増加の可否について、園職員と綿密な検討を行っていく。</p> <p>☞わくわくタイムは、保育園、学校、学生それぞれが、実施する目的を理解し、習慣化できるように、実施の内容・方法を検討していく。</p>	B
			幼稚園免許取得に向けて、希望者全員が免許を取得できている	<p>○保育学科2年生については、併修希望者32名全員が幼稚園教諭二種免許を取得できるよう、単位認定に向けたサポートに注力し、全員が免許を取得した。1年生については、履修方法や経費等の説明を丁寧に行い、レポート作成支援にも注力した。前期終了時には、全員が自力で作成できる力を身に付け、免許取得に向けて取り組んでいる。併修による多忙感に悩む学生もいることから、免許取得については一人ひとりが将来を見据え、熟考した選択ができるよう支援している。また、来年度入学生に対しては、2月に実施した入学前説明会において併修方法や必要経費等を詳しく説明し、慎重な選択を促した。</p>		A
			学生が主体的に学び、介護現場で求められる実践的なスキルを身につけることができる	<p>○介護の専門性を高める授業として、ユニ・チャームによるオムツに関する講義、認知症の世界を理解するためのVR体験、キューピー（株）による食事の基礎や介護食に関する講義、訪問入浴体験などを実施した。企業や介護現場の専門職による講義や体験を通して、学生は「食べる」「触れる」といった実践的な学びを得ることができ、普段の授業では得にくい介護現場を具体的にイメージしながら理解を深めることができた。</p> <p>○長野県社会福祉協議会主催のケアコンテストに6年連続で参加し、今年度は優秀賞を受賞した。学生は意欲的に取り組み、思考力や実践的なスキルの向上につなげるとともに、介護に対する志を一層高めることができた。</p> <p>○介護福祉士資格国家試験対策模試、個別対応を実施し、全員（12名）が合格の見込み（自己採点の結果）合格発表は令和8年3月16日（月）</p> <p>○養成施設卒業者も国家試験合格が必要となった平成29年度以降、本校の合格率は100%である。</p>	<p>☆3/16 合格発表を受けて、修正</p>	B
			信州の豊かな自歴史・伝統を愛し誇りを持ち、社会福をじて、持続可能な地域づくりに貢献する人材を育成する。	<p>体験活動等により、豊かな感性を養う広い視野から社会と自分の行動を学び得る機会の提供できている</p>	<p>○保育学科の教科目「地域実践演習」において、フィールドワークを実施した。5つのコース（味噌づくり、美術鑑賞、時計づくり、オルゴールづくり、ガラス工芸）からの選択制とすることで、学生がより興味を抱く事柄を探求することができ、体験しながら諏訪地域の歴史や伝統に触れる機会となった。また、選択制とすることで学年を超えた交流の機会となり、新たな人との繋がりに高評価を示す学生も多かった。</p> <p>●フィールドワークについては、同窓会から経済的支援をいただいているが、コースにより学生の自己負担額に差が生じる。経済的理由から自由な選択が困難な学生もいるため、費用負担のあり方について検討が必要である。また、演習姿勢が受動的な学生には、より主体的に取り組めるような環境づくりが必要である。</p>	<p>☞フィールドワークを通して、学生が保育士として必要なスキルや知識をどのように身につけ、活かしていくか検討していく。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ○介護福祉学科は、利用者との対話をより理解するため、岡谷蚕糸博物館を見学し、昔の製糸業の歴史や作業工程について学んだ。実習先で関わる利用者の中には、若い頃に製糸工場で働いていた方や、家業として蚕を育てていた経験を持つ方が多く、博物館で得た知識は、利用者の話をより深く理解したり、会話を広げたりするうえで、役立つ知識となった。 ○園芸委員が中心となり、5月にマリーゴールド120本、9月にパンジー100本をエントランスに植えた。花を育てる体験を通して、身近な環境を整える行動が周囲の人の気持ちや場の雰囲気の良い影響を与えることを実感した。また、自然や季節に目を向けることで感性が養われた。 ○授業において作成した季節の飾り物（こいのぼり、トンボ、お雛さま等）を、コミュニティホールに飾った。展示することで、学生は季節感を取り入れた環境づくりの大切さや、見る人を意識した表現の工夫を学んだ。 		
	<p>地域、社会の一員として行動する重要性を考える機会を提供できている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○介護福祉学科学生が地域住民と一緒に諏訪市の街歩きを行い、地域の歴史や文化を取り入れた地域すごろくを作成した。活動の中では、地域の方との回想法の実践や認知症カフェへの参加を通して、交流を楽しみながら理解を深めた。さらに、介護実習において地域すごろくを実践的に活用することで、回想法の意義や効果的な活用方法についてのスキルを習得した。完成した地域すごろくは、一緒に作成した地域の方々と、諏訪圏内の社会福祉協議会や介護施設、地域住民、小中高校、保育園等へ配付した。これにより、地域理解と回想法の実践力を高めるとともに、地域すごろくを地域へ配付することで、地域・社会の一員として行動する重要性を実感することができた。 ○保育学科では、「不適切保育の実際を学ぶ講義」、「保育園児の保護者との懇談」、「保育の5領域を踏まえた創作ミュージカルの実践」と、3回の特別講義を実施した。どの講義も実際の保育現場で即役立つ内容とした。特に不適切保育や保護者対応については、保育所等への就職にあたり不安を抱く事柄であるため、学生は自分の身に置き換えて考え、積極的な意見や質問が出された。 ○保育学科2年生14名が諏訪圏フォーラム（諏訪青年会議所主催）のジョブキッズコーナーにおいて、保育士体験（乳児の世話、ピアノ、おもちゃ作り等）の企画、進行を担った。いかに子どもがその時間を楽しみ、保育士に興味を抱けるか、仲間と共にアイデアを出し合いながら構想を具体化することができた。創造する難しさや、仲間とのやり取りに苦戦しながらも、社会人と共に、事を成し遂げる責任を感じながら緊張感のある演習となった。 ○今年度は全8回の地域公開講座を開催し、延べ64名の地域住民や関係者が来校した。介護福祉学科では回想法や手話、ふまねっと運動の特別講義を実施した。保育学科では、人形劇鑑賞や現役保育士との交流に加え、自然体験を通じたネイチャーゲームの実践を行い、学生と参加者双方にとって実りある機会となった。また、両学科合同で川崎昭仁氏によるミニコンサートを開催し、音楽とパラリンピアン活躍を通じて多様性への理解を深めた。これらの取り組みは、学生の地域貢献への意識が高めるとともに、専門知識の共有や学校のPRにもつながった。 ●地域公開講座は一定の参加数を得られたものの、参加者が固定化する傾向がみられるため、幅広い世代や新規参加者を得るための周知方法を工夫する必要がある。加えて、講座内容についてテーマ設定や開催時期、回数などを見直し、方法を模索していく必要がある。 ○文化祭に併せて長野県社会福祉協議会と共催し、「ふくしニア（ふくしのお仕事体験）」を開催した。高校生からシニアまで129名、子ども82名が参加し、ピアノやスライム作り、手話、車椅子など多様な体験を通して、幅広い世代に福祉の仕事を手近に感じてもらう機会となった。学生にとって来場者へ説明や支援を通じて、福祉の魅力を伝える力や専門職としての意識を高める貴重な経験となった。2回目となる今年度は、文化祭と同時開催したことで参加者が昨年度の30名から大幅に増え、より幅広い世代に福祉への関心を広げた。今後も地域と連携しながら内容の充実を図り、来年度も継続して実施していく。 ○世界自閉症デー及び世界アルツハイマー月間への継続的な参加（4回目）を通して、学生は発達障害や認知症に関する正しい理解と啓発の重要性を学んだ。啓発グッズの制作・配付や展示活動を経験することで、地域住民に分かりやすく伝える工夫の必要性を実感し、支援や理解を広げるための実践力の向上につながった。また、地域や関係機関と連携した活動を通して、福祉専門職として社会に働きかける役割を意識する機会となった。 ○介護福祉学科学生5名が諏訪広域介護フェスタへ参加し、地域の介護施設関係者と協力して介護に関する啓発活動を行った。これにより、学生は学校内の学びにとどまらず、地域全体で支えていくものであることを理解することができた。さらに、現場で働く方々と直接関わることで、介護の仕事に対する理解が深まるとともに、学習意欲の向上や地域と連携する力の育成につながった。 	<p>☞2月中に次年度の地域公開講座の内容（日時・内容等）を見直し、4月にはホームページ上で公開できる体制を整える。</p>	<p>A</p>

課外指導	<p>みんなのしあわせのために、自らとるべき行動を学び、考える力を養い、目標に向かって行動できる人材を育成する。</p>	<p>社会を構成する一員として、社会課題を意識し、主体的な行動に繋がる指導できている</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会人研修を卒業予定学生に実施し、薬物乱用、お金に関する基礎知識、就職内定者向けセミナーを通して、学生は社会人として求められる心構えや責任を学んだ。 ●社会人研修は授業単位として位置づけられていないため、学生の参加意欲が十分に高まらず、出席率が低下する傾向がある。 ○毎年実施している学習・授業評価事業について、今年度から学校評価における自己評価の一つの指標と位置付け、非常勤講師を含む全教員が学生からの評価や意見などを聞き取り、授業改善と学びの深化を図った。これにより、教員は学生の意見を通じて授業や改善点を把握し、必要に応じて指導方法や授業に対する姿勢を見直す機会となった。 ●スマートフォン等の情報機器の適切な利用やペーパーレス化への対応、授業態度に関する指導など、学習環境に関する課題があり、指導体制やルールの整備を検討する必要がある。 ○介護福祉学科では、諏訪市人権擁護委員による人権教室を実施した。学生は事例を通して、人と関わる上で人権感覚がとても重要であることを改めて学び、人権について再認識し意識を高める機会となった。 ○定期的に市内の児童発達支援センターでの行事や、諏訪湖のゴミ拾いに参加するなど、地域において学生が主体的に活動することができた。 ○高校における GIGA スクール構想の実施や本校における授業の効率化や環境保護の観点から、校務のデジタル化を進めており、今年度は全館に Wi-Fi 環境を整備した。あわせて、情報機器及び Wi-Fi の利用方針の整備やセキュリティ対策を行い、来年度に向けて学生が安全かつ安心して学習に取り組める環境を整えた。 ●スマートフォンは全学生が保有している一方で、学習に必要なパソコンを保有していない学生が全体の約 20% を占めているという課題がある。ICT を活用した授業の推進にあたり、本校では、原則として各自でパソコンを準備することを前提としつつ、経済的事情等により用意が困難な学生に対しては、貸与を含めた支援策を講じ学習環境の格差が生じないように配慮が求められる。その際、貸与対象の基準や手続き、利用条件を明確にし、公平性・透明性を担保した運用体制を整備していく必要がある。 ○教務学習支援システムの導入に向けて、複数の教務学習支援システム提供会社から具体的な機能説明及び導入事例の説明を受け、現在、比較、検討を進めている。システム導入により、情報の一元管理ができ、組織全体の業務の質の向上が見込まれる。 ○ペーパーレス化の推進として、非常勤講師及び専任教員に対し、授業教材や会議資料を削減すること、また、連絡ツールとして郵送からメール等の電子媒体への移行を進めた。その結果、教職員のペーパーレス意識が高まり、今年度は前年度と比較して紙資料を約 30% 削減することができた。 ●ペーパーレス化のさらなる推進が求められる一方で、削減を進めるだけでなく、授業教材については紙資料があることで学習しやすいという学生の意見も見られた。今後は学習効果や学生のニーズを踏まえ、電子媒体と紙媒体の適切な使い分けを検討していくことが必要である。 ○教科目「地域実践演習」において、SDGs の基本知識と保育現場で活かせる具体的な取組みについて考えた。特に SDGs の「環境、社会、経済」については、保育と親和性が高く、保育現場の具体例を挙げながら考えることで理解を深め、SDGs を身近に感じ、「自分もできる」「保育士として啓発できる」ということが実感できたのではないかと。 ○各学科単位で「学生と校長との対話」を実施し、学生の意見や要望を直接把握するとともに、内容を整理して職員間で共有し、対応方針を学生へフィードバックした。これにより、学生の声を学校運営に反映しようとする姿勢を示し、安心して意見を表明できる環境づくりにつながった。今年度新たに開始した取組であり、今後も継続して実施し、学生の声を学校運営に生かす体制の充実を図っていく。 ●社会情勢や保護者・利用者の考え方の変化にしっかり対応できる保育士・介護福祉士を養成するため、学生には専門的知識や技術の習得だけでなく、さまざまな分野に触れられる環境が必要である。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞単位にならないが、就職後の生活や職業に直結する重要な内容であることを事前に説明し、受講の必要性について理解を深める。また、就職指導の一環として、参加が前提となる位置づけにするなどを検討する。 ☞情報機器の適切な利用に関するルールの整備やペーパーレス化への対応を進めるとともに、授業態度に関する指導基準を明確にし、職員間で共通の指導体制を整備する。 ☞原則として各自でパソコンを準備する方針を明確に周知するとともに、準備が困難な学生への貸与基準の整備や学内利用環境の充実を図る。また Wi-Fi 導入に伴うセキュリティ対策を徹底しながら、学生によって学習環境に差が生じないように体制を整えていく。 ☞来年度は、授業内容や科目の特性に応じて電子教材と紙教材を使い分け、事前配布資料はなるべく電子化し、必要に応じて紙教材を活用する。併せて、学習効果とペーパーレス化の両立を図っていく。 ☞時代に合った科目を増やし、フレキシブルに科目選択ができるようカリキュラムの見直しを検討していく。
	適切な支援により、個々の学生に適した就職ができている	<ul style="list-style-type: none"> ○保育学科 1 年生はキャリア形成の授業を通じて、保育士として働くイメージを培ってきた。また、福祉人材センターの協力を得て 10 自治体の担当者から学生の希望に沿って直接説明を聞く機会を設けた。 ○学生個々の特性や意向を踏まえて求人情報提供、進路支援を行った。個々の特性、支援等については、学科会の際に学科全体で評価しながら実施した。 ○両学科とも、将来働くうえで必要となる知識、就職対策に必要な知識、技術などを行うことで、就職準備ができている。学生個々が希望する就職先に就くことが概ねできている。 	B

<p>学校運営</p>	<p>志の高い学生の応募に繋げるため、本校の魅力を発信し、誰からも愛される福祉人材を育成する。</p>	<p>本校の魅力を明確かつ的確に発信し、志の高い学生の応募を促し、定員の充足に努めることができている</p>	<p>○学生募集の取り組みとして、オープンキャンパスや文化祭、卒業記念音楽会等イベントや公開講座、学生生活について、ホームページやInstagramの更新回数を増やし、高校生等への情報発信を強化した。併せて学校訪問で、本校の魅力を直接伝えた。また、今年度はオープンキャンパスを2回実施したほか、当初予定をしていなかった3月に3回目のオープンキャンパスを追加開催するなど、状況に応じた計画の見直しを行った。</p> <p>○今年度から、保育士・介護福祉士人材の確保を目的として、小・中・高等学校を対象に出前講座を実施した。今年度の実施件数は4件にとどまったが、小学生から「保育士になりたい」「福祉系の大学に進学したい」といった声が寄せられるなど、将来の福祉・保育分野への関心を高める成果が見られた。今年度は広報開始が5月下旬となり、十分な周知が図れなかったことから、来年度は早期に計画・周知を行い、より多くの学校に活用してもらえる体制を整えていく。</p> <p>○介護福祉学科では、保育士養成校へ訪問する際に、本校の特色であるさまざまな福祉分野への就職状況について、具体的に値化して説明した。また、社会福祉協議会主催の「ふくしの仕事説明会」において本校パンフレットを配布した結果、一般の方から数件の問い合わせが寄せられた。</p> <p>●保育学科は一般選抜終了時点で37名の合格者が決定しているが、昨年度に引き続き入学予定者数が40名を下回る状況となっている。介護福祉学科においても合格者数は14名にとどまり、入学者数が定員20名を下回る状況になっている。少子化による受験者数の減少や、四年制大学等への進学志向の高まりなど、高校生の進路動向を踏まえた分析が必要である。これらを踏まえ、今後、入試形態の見直しをはじめ、学生募集要項やパンフレット等の内容を全面的に見直すなど、本校の特色や強みがより伝わる学生募集対策を講じていくことが必要である。</p> <p>○公式Instagramでは、本校の魅力が伝わる内容を中心に発信を強化した結果、フォロワー数は1年間で300人台後半から500人台前半へと増加し、閲覧者からも多くの好評を得ることができた。また、適正な運用を行うため、「Instagram実施要領」を策定した。</p> <p>○ホームページは高校生にも関心を持ってもらうよう、適宜更新を行い、特に入試情報についてはできるだけ早く情報発信した。なお、来年度からよりホームページを閲覧してもらえるよう、県公式アカウントから切り離し、独自のホームページが作成（作成・維持管理を外部委託）できるよう必要な経費を予算要求し、実施することとした。</p> <p>○広報媒体の見直しとして、情報発信の目的や対象に応じてプレスリリースの役割を整理し、新聞やLCVなどのメディアを効果的に活用する方法を検討した。また市町村や社会福祉協議会の広報誌を通じた情報発信にも取り組んだ。</p> <p>●広報の方法の整理や計画的な実施、より高校生等に訴求できる体制づくりが課題となる。</p>	<p>☞保育学科・介護福祉学科ともに、入試形態の見直しや、魅力が伝わる募集要項等の見直しをし、本校の特色を効果的に発信していく。</p> <p>☞広報媒体について、時期と内容の精査を行う。</p>	<p>B</p>
<p>教育施設の適正な運営</p>	<p>教育施設の適正な管理をする。</p>	<p>快適かつ安全に学べる環境の維持に取り組むことができている</p>	<p>○支援する会から、正面玄関前に設置する本校の看板「長野県福祉大学校」を寄贈していただいた。これまで敷地入口に学校名を示す看板はあったが、外観から分かりにくかったため、看板が玄関前に設置されたことで、来校者にとって学校の存在が明確になり、認知度の向上につながることを期待される。併せて、玄関前のエントランスに「オタフクナンテン」の寄贈も受け、エントランスが一層華やいだ雰囲気となった。</p> <p>○感染症（新型コロナウイルス、インフルエンザ等）への対応として、各学年の感染者が概ね10%に達した段階でオンラインによる課題学習への切り替えや基本的な感染対策を徹底した結果、集団発生を防止、感染拡大を最小限に抑えることができた。また、今年度は悪天候による電車運休等で通学に支障が生じる機会は少なかったが、状況に応じて課題配信や補講等を行うなど柔軟に対応し、学生の学修機会の確保に努めた。今後も感染症や災害等に備え、オンライン授業を併用した学びの保障体制を継続的に整備していく。</p> <p>○必要な樹木の剪定や伐採を実施し、学生が快適に学べる環境づくりに努めた。</p> <p>●更新時期を迎えている設備を順次更新するよう計画をしているが、突発的な故障や不具合も多く発生しているため、学生の学習環境や職員の就労環境に支障をきたしている。</p>	<p>☞更新時期を迎える設備や突発的な故障に対し、優先順位を明確にし、予算内で計画的に対応していく。</p>	<p>B</p>
<p>その他</p>	<p>コンプライアンスを遵守できたか。</p>	<p>教職員や関係者が、学校及び自分のミッションを理解し、目標達成に向けて、取り組むことができている</p>	<p>○授業から学校運営に至るまで法令を遵守し実施している。</p> <p>○今年度「長野県福祉大学校におけるハラスメントの防止等に関する規程」を制定し、職員及び学生が安心して学び働くことのできる環境を整備した。</p>		<p>A</p>